



特集1

まちのにぎわいを 消さないために

新型コロナウイルスの感染拡大により、全国的に「自粛モード」が続いています。県内でもコロナウイルスの感染者が増え続けており、イベントの中止や学校の休校、施設の閉鎖など、社会的な影響が広がっています。

この自粛モードに大きな打撃を受けているのが、飲食業や宿泊業を営む事業者です。市内の業者も決して例外ではありません。3月から4月の繁忙期にキャンセルが続出し、大幅な収入減となっています。今回ばかりは本当に苦しい。先が見えない――

関係者から聞こえるのは、悲鳴にも似た切実な声。家族でこちそうを食べたお店、親戚とお祝いをしたお店、友人と語り合ったお店、皆さんの思い出が詰まった市内のお店が、苦境に立たされています。

過疎化が進む地方においては、まちからなくなってしまうお店を、同じような形で取り戻すことは困難です。お店がなくなれば、人口減少に歯止めをかけることもできなくなります。今、できることを考えてみましょう。まちのにぎわいを消さないために。